

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 29 年度

事業所番号	2790300095		
法人名	社会福祉法人いわき会		
事業所名	グループホーム錦の里		
所在地	大阪府寝屋川市錦町20-5		
自己評価作成日	平成 30年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成 30年 4月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JirgyvsvoCd=2790300095-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 30年 2月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム錦の里では、利用者様の住み慣れた地域での生活を支える為家庭的で暖かな雰囲気、笑顔と触れ合いによる居心地のよい環境を整え利用者様とご家族様の心のケアを行い、安心と信頼で喜び広がる幸せ作りの場として「ともに」「楽しく」「和やかに」暮らしを続けられるように努めております。また「気づき」のケアを重視し保持する能力を活かす工夫を常に考え支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小規模多機能型居宅介護事業所に併設された2ユニットのホームです。創設者は開業医として勤務する中で、「地域の人々が住み慣れた場所で暮らすことを大切にしたい」と、アットホームな場として、施設を「かけ込み寺」と位置付け開設しました。管理者は、在宅で認知症の家族のケアを通して法人との出会いがあったことから、法人の理念を理解して、自然な関わりの中で心が通うよう、利用者や家族との絆、地域との繋がりを大切にしています。理念のもと、職員は利用者と共に生活を楽しんでおり、ホーム内は、職員と利用者の笑い声やお喋りでにぎわい、自然な時間の流れの中で、自由な暮らしが保障されています。利用者の「ここは楽しいわ」との発言も聞かれました。また、「利用者や家族との繋がりを大切にしたい」と、2階のベランダのスペースを囲い、喫煙所として活用し、また自動販売機も設置し、家族との団らんの場として開放しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>施設の玄関の見えやすい所には法人の理念を掲示して管理者・職員等が理念の共有に繋げ、グループホーム入り口には錦の里の方針を掲げ共有を行いユニット内でも目標を決め職員が見える所に貼って共有し実践に繋げている。</p>	<p>法人の理念「1. 我々は人の命を何ものにもかえ難きものと思い凡(すべ)ての行動の基本とします。2. 我々は心を持っています。心と心を開きお互いを信頼して生活(くらし)ています。3. 我々は、優しさと思いやりを育み和を以って貴しの精神を培っていきます」を、玄関に掲示しています。また、接遇委員会では、理念を具現化するために、職員からの声を集め「おはようの四文字が結ぶ心の和」を掲げ、利用者や家族の見えるところに掲げています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の行事には積極的に参加を行い、小学校の運動会やお祭り・町内会全体で行う清掃やお餅つき等に地域の一員として参加し、地域の商店街での買い物や散歩を通し交流している。</p>	<p>自治会に加入し、回覧板や会報等で年間行事のスケジュールが届きます。地域の情報を得て、職員や利用者が参加できることを把握しています。夏祭り、地域のお祭り等に参加し、交流を図っています。秋祭りではお御輿の巡行の休憩場となっており、利用者が子どもたちにお菓子を振る舞っています。地域の役割として、市社協の「緊急時安否確認(かぎ預かり)事業」や地域の掃除、花を植えるお手伝いにも参加しています。また、商店街の助成会員になり、商店のお祭りでは認知症のよろず相談も行いました。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>認知症の情報発信地となるように相談に来られた地域の方や家族様の方の思いを聞き、ケアのポイントになる様な助言を出来る限り行っている。運営推進会議にも認知症の方の理解を深めており、施設入口等に「介護に関する相談(お気軽にどうぞ相談下さい)」等の張り紙を行い地域の方に活かしている。</p> <p>また、自治会役員との会議を持ち地域独居の方の安否確認の為自宅の鍵を預かり、独居の方の安全は生活を守る取り組みにも協力している。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>二ヶ月に一度定期的に運営推進会議を実施し、施設の利用状況や地域行事への参加、施設に対しての意見を入居者様・家族様・町内会役員・市役所職員・包括支援センター職員から聞かせて頂きサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の運営要綱を定め、2か月に1回会議を開催しています。運営推進会議の出席者は、自治会の会長、副会長、老人会の代表者、地域包括支援センター職員、小規模多機能型居宅介護事業所の職員です。会議開催については、事前にFAXで知らせています。会議内容は事業活動、行事内容、家族会の報告等で、出席者からはアドバイスや地域の情報提供を受けています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターと常に連携を図る事や、事業活動の中から発生した疑問等については常に市町村担当者に相談している。</p>	<p>グループホーム連絡協議会に参加し、市の状況や他のグループホームとの情報を共有しています。空き情報等についても市と連携を図っています。市社協の「緊急時安否確認(かぎ預かり)事業」にも参加しており、地域住民の生活を守るための役割を担っています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中は玄関の施錠せずに開放している。センサーマットについても極力使わない様に職員が努力している。また、研修等で身体拘束について職員全体で周知するように努めている。</p>	<p>法人全体で身体拘束廃止や虐待防止、人権に関する研修を実施し、利用者の尊厳を守るケアを実践しています。小規模多機能型居宅介護事業所とグループホーム共用の玄関は開錠しており、1階・2階の各ユニットの玄関とエレベーターは自由に行き来できます。職員は、鍵をかけないケアの重要性を認識しており、自由な暮らしを保障したいと考えています。利用者が外に出ていこうとするときには、1階の事務所の窓口でキャッチし、対応できるように取り組んでいます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内の虐待については職員全体で入浴・排泄等に注意を払い防止に努めており、職員間で何が虐待になるのかを話し合い確認を行っている。 以前自宅で虐待を受けている方を措置入居で受け入れを行った。今後とも積極的に受け入れを行います。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人や日常生活自立支援制度を利用されている入居者様が多い為、実際に入居者様と関わりを持ちながら制度を学び支援を行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結時には入居者様や家族様に十分な説明を行い、不安や疑問点を尋ね不明な点については納得されるまで説明を行い、契約後でも分からないと言われた場合には随時訪問させて頂き説明を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様に運営推進会議に出席して頂き、ご意見・ご要望等をお聞きして運営に反映させている。また、ご意見箱の設置も行い意見を取り入れる様に努力している。	家族会があり、年に1回家族交流会を開催しています。出席者が少ないこともあり、今後できるだけ多くの家族が参加でき、家族間での交流が図れるように工夫をしたいと考えています。職員は、「常に利用者と家族の意見を大切にしてケアを行いたい」と、ホーム独自でアンケートを実施しています。アンケートで出された意見や要望は、できる範囲で実行しています。ベランダの喫煙場所もその一つです。また、家族の来訪時には、職員から積極的に話しかけ、意見や要望が出しやすいよう努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、リーダー会議・ユニット会議を実施して職員の意見を聞き運営に反映させている。	管理者は、職員の思いや意向を把握するために、日頃の仕事の中で、できるだけ職員の要望を把握できるように声をかけています。気になることがあれば積極的に声をかけ、話しやすい関係づくりに努め、風通しの良い職場環境を整えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	法人内にすぐやる課の設置を行い業務の改善に取り組んでいる。 また、施設内にて職員がリラックスして休息が取れる様に畳部屋にカーテンを取り付ける等の工夫を施し、環境整備に努めている。		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	向上心を持って働ける様に勉強会を開きスキルアップして頂ける場を設けている。施設内外の研修には出来る限り参加すると共に、参加できなかった人にも分かる様に講習や研修資料を誰でも見れるように回覧している。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	研修等で知り合えた同業者との3ヶ月に一度の情報交換会に参加している。尚、担当ケアマネが連絡会等の事業所連絡会にも参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	入居相談があった場合は入居者ご本人様に必ず一度居室を訪問して頂く様に声掛けて実行している。入居者様ご本人に安心して入居して頂く様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時に困っている事、不安な事、要望等を聞いて確認させて頂く様に努めている。また、不安がある場合には、入居契約後であっても来所して頂き説明して信頼関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時の聞き取りは必ず行い、必要と考えられるサービス等は高齢介護室、社会福祉協議会等の公的サービスやその他のサービス等に確認し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来ない事に注目するのではなく、出来る炊事や洗濯等は毎日職員と共に又は入居者様同士で行い、職員は出来る限り入居者様に寄り添い会話をし、入居者様同士の交流を深める様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様と家族様との絆を深めて頂く為家族様の都合に合わせて外出・外泊・外食等を自由に行っている。また、ご家族様へは施設での食事風景や生活状況等の写真を載せた通信を郵送してご家族様と入居者様の絆を繋ぐ事や外食の機会を持ち、ご家族様にも参加して頂ける様に声掛けさせて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族様や知人の方の面会は自由でいつでも来て頂ける様にしている。 また、馴染みの場所やお店等を訪れて頂き、関係が途切れない様に努めている。</p>	<p>馴染みの場所や人との関係が途切れないよう、面会時間は特に制限していません。近隣の友人が、ホームに訪ねてくることがあります。また、ホームの窓のカーテンを開け、日頃から地域の人と顔を合わすことができるようしており、窓越しに挨拶を交わすこともあります。地域の散歩や利用者が以前住んでいた場所に車で出かけたり、馴染みの酒屋へ職員と一緒に飲みに行くこともあります。友人や家族の協力も得ながら、選挙に出かけたり、また美容院、かかりつけの医療機関などとの関係が継続できるようにしています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>椅子やテーブルの配置等施設内の配置を常に考え必要な場合は座る位置の移動を行う。入居者様が楽しく孤立しないように支援し、不穏状態の場合にも移動先の入居者様に確認後一時的に席の変更をさせて頂いている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>他事業所へ移られても必要な情報は提供している。転居された人に対しても面会等を行い関係が切れぬ様にしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や声掛けの時に、入居者の表情や態度からその日の気持ちや状態を把握している。必要な場合は居室にてお話を聞かせて頂いている。	初回の訪問時にどのような暮らしを望むのか聴取し、意向を把握しています。また、入居後も職員は日々の会話の中で、どのようなことをしたいか把握し、できるだけ自己選択できるように働きかけています。言葉での表出が困難な場合は、表情や言葉から思いを把握できるよう努めています。下肢の筋力を維持したいとの希望に応じて、入居後も地域のリハビリ施設に通う人もいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りや入居者様が以前利用されていたサービスの情報提供をもとに、出来る限り今までの生活、暮らしを変えないように知り得た情報を職員全体が共有出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの現状を観察し記録に残し必要であれば申し送りノートを活用し職員間で連絡を取れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>定期的に本人・ご家族様より今後の意向についてお聞きする機会を設け、計画に反映している。</p> <p>また、毎月カンファレンスやモニタリングを実施している。</p>	<p>介護計画の見直しは、概ね6か月に1回行われています。状態に変化がある場合は、その都度見直しを行っています。担当職員を決めており、日頃より利用者や家族と関係を築く中で、利用者の様子を把握し、毎月のカンファレンスで話し合いを重ねています。日々の記録やカンファレンスを活用して、毎月モニタリングを実施しています。</p>	<p>生活歴やできること、好きなことなどの情報は把握しており、計画に反映していますが、整理に工夫が求められます。できるだけ職員皆で情報共有できるよう、誰が見ても分かるようにシートの整理をされてはいかがでしょうか。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>関わったそれぞれの職員が個人記録に適宜記入を行い、情報を共有し活かし介護計画作成の基本としている。</p> <p>個人記録や申し送りノートを活用してユニット会議で話し合いを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人様が希望のある場合で、職員の対応が難しい場合には介護保険外サービスを利用できるよう家族様や成年後見人等に確認して利用して頂ける様に取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域ボランティアの方の利用や地域行事に参加する事でリフレッシュして頂ける様に心がけている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>主治医に関して、本人様・家族の希望を聞いている。 また、他科受診の必要がある場合も家族様と協議し対応している。</p>	<p>協力医療機関の内科より月に2回の往診はありますが、医療機関の選択は利用者、家族に任せています。月に1回の精神科や眼科への受診は家族が連れて行っています。 外部医療機関への受診は、家族の協力を得ながら、必要に応じて職員が支援しています。日常的な健康管理は、併設の小規模多機能型居宅介護事業所の看護師が行っており、週1回の訪問看護や協力医療機関と連携を図りながら夜間、緊急時の24時間体制を整えています。誤薬、火傷、転倒などの緊急時対応マニュアルは整備されています。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員は勤務していない為、訪問看護師に週一度訪問して頂き、日常の関わりの中での気づきや情報を伝え相談を行っている。緊急時には24時間連絡出来る体制をとっている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>病院の入院や退院時には職員が家族様・成年後見人等と病院に行き、入院手続きや説明を聞き必要な場合は入院時の付き添いを行い安心して治療が出来るようにしている。 また、入院先の医療連携室と連絡を密に行い、入院中の状態や退院後の対応について相談や情報交換を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>実例はないが利用者の状況に応じ、本人・家族・主治医・訪問看護・職員と今後の方針について話し合い共有していく予定。</p>	<p>今までは看取りへの積極的な対応はしていませんでしたが、今後、「利用者、家族の意向を把握しながら、重度化や終末期に向けて支援をしていきたい」と考えています。職員は、法人内での研修や看取りをした利用者とのかわりを通して、身体面の変化や精神面の思いを知る機会を得て、看取りについての意識が変化しています。現在、マニュアル作成や体制を整えており、法人の方針も踏まえて、今後、チームで検討しながら終末期のケアを進めていく予定です。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>訪問看護師による事故発生時及び初期対応の勉強会を定期的に行っている。全員参加出来ない場合はミーティング等により伝達講習を行っている。また、事故・急変時にスムーズに対応できるよう希望搬送先やご家族様の連絡先再確認、緊急時の職員召集順位等を決めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2階の消防訓練を通して昼夜の避難誘導や災害時の避難経路を災害マップで確認し、安全な避難方法を検討すると共に運営推進会議にて地域の方への協力要請や地域の商店街の消防訓練にも参加して協力体制をお願いしています。また、消防訓練には自治会役員の方にも参加して頂き訓練を行っている。自治会役員の方より、夜間に避難時には応援に来て頂けるとの声も頂いている。</p>	<p>防災(火災、地震、風水害)マニュアルを作成しています。年2回の消防訓練を行い、うち1回は消防署の指導のもと実施しています。訓練には、自治会の役員も参加しており、ホームに災害が発生した場合は、地域住民の方々が協力してもらえという話し合いができています。災害時の食料と水の備蓄については、米、みそ、水は準備できています。ホーム内にある自動販売機の飲み物は災害時には活用できる契約になっています。ブルーシートやバーベキューセット、カセットコンロ等の準備はありますが、食糧については品数が少ない状況です。</p>	<p>今後、災害時に備えて食料品を増やされてはいかがでしょうか？</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の申し送りやユニットかいぎの際、尊重したケアや言葉使いについて意見交換しスタッフに啓発している。時に業務に追われずすべてが良い対応が出来ていない事もある。	人権や身体拘束廃止についての研修を行っています。接遇委員会もあり、言葉遣いや挨拶についても、話し合いを行っています。日常生活の場面で、できるだけ自己選択できるような言葉かけを心がけています。トイレへの誘導や入浴時の羞恥心への配慮など、利用者一人ひとりの生活背景や場面に応じた対応を心がけています。職員同士で言葉遣いや利用者への対応等、気になることを注意し合う環境が整っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように声かけを行い、自己表現や意見の言いやすい環境や関係作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活面全てにおいて一人ひとりのペースを尊重し、暮らしの主体者として入居者様が自由に自分らしく生活出来る様に援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理容を取り入れている。 また、起床時は洋服を確認し外出時には外出着に着替えを行える様に声掛けを行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人様の嗜好に沿った食事提供(代替等)を行う様に心がけている。 食事の準備や片付けは出来る範囲で手伝ってもらっている。	ご飯とみそ汁はホームで作り、クックチル方式で調理した副食を食材業者から取り寄せ、スチームで温めて提供しています。月に3～4回は手作りの日があり、利用者も買物から食事準備、下ごしらえなど役割を持って参加し、楽しんでいます。食事前には嚥下体操をして、音楽をかけ、職員は利用者と共に同じものを食べながら、さりげなくサポートをしています。利用者が苦手なメニューの時は味付けを変えたりして工夫しています。誕生月には手作りケーキを作り、皆でお祝いをしています。たこ焼きパーティをしたり、外食にも出かけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック、排泄・水分チェック表を作成して排泄時間や水分摂取量のチェックを行い、一人ひとりの状態を把握し1日の摂取量が確保出来る様に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは入居者様の自立度に合わせて自分で出来る方には促しを行い、口腔ケア介助が必要な方には職員が介助を行っている。 食前には口腔体操を取り入れ飲み込みがスムーズに出来る様に心がけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導や声掛けを行っている。排泄チェック表等で各々の排泄パターンを把握し個々に応じた声掛けや誘導等を行い排泄は出来るだけトイレで行える様に努めている。	排泄は、尊厳を守るケアであるとの意識を持ち、トイレでの排泄を基本としています。排泄チェック表を活用し、日ごとの行動パターンや本人の習慣を把握し、さりげなく排泄誘導を行っています。必要に応じて夜間のみポータブルトイレを使用している人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として毎日の運動やレクリエーションの実施、オヤツ時にヨーグルトや繊維質の食べ物を提供している。 排泄チェック表を使用して便のカウントを実施、3日間排便がない場合は医師の指示により薬剤を使用して排便を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意向により時間等臨機応変に対応している。入浴拒否のある方にはアプローチの仕方を検討し入浴して頂ける工夫をしている。 また、冬場は足浴を行っている。	利用者は、平均して週2～3回入浴しています。お気に入りのシャンプーを持参している利用者もいます。入浴を好まない利用者には声かけの工夫で入浴を促しています。足浴を楽しんでいる利用者もいます。桜湯・菖蒲湯・ゆず湯など、季節の行事風呂も実施しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方にはスタッフが居室内で一緒に話をさせて頂いたり、フロアに来て頂き一緒にお茶を飲んだりと安心して気持ちよく眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は職員が行っており、各職員には服薬時の副作用や用法・用量を常にお薬の説明書を確認・把握する様に伝達している。薬の変更があった場合は変化をドクターに報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の入居者様の生活歴を踏まえ趣味嗜好・特技等の把握に努めており、自身に力を発揮出来るような関わりを心がけている。また、プログラムやレクにおいても入居者様の意向を伺いながら実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の買い物支援・気分転換のドライブ、天気の良い日に近所の公園等出来る限り利用者に応じた外出支援を行っている。また、家族様やボランティアと一緒に外出して頂くこともある。	日常的に小学校周辺や公園の散歩に出かけ、駅前商店街やスーパー等への買い物、小学校の運動会、町内餅つき大会、夏祭り等地域の交流イベントにも出かけています。初詣、季節の花見、選挙、大型スーパーへの外出をしています。家族と墓参りやかかりつけ医の受診に出かける利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理不能な方には家族様・成年後見人等と話し合い、金銭管理を施設で行っており金銭出納帳を作成して家族様に残金確認をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	いつでも利用出来る様に支援している。希望者により居室に携帯電話を置いて頂く。手紙が来た時には返事を書くように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共有空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>空調や明るさ等の環境には常に配慮している。季節感や生活感がでる様に手工芸等を飾っている。</p> <p>トイレについては空調がなく、真冬・真夏等は室内との温度差がある。</p> <p>また、気分転換出来る様にソファを設置している。</p>	<p>併設の小規模多機能型居宅介護事業所と共用の一階玄関の事務所前には、ソファが置いてあり、くつろげるスペースとなっています。ホームは明るく清潔で、掃除が隅々まで行き届いています。廊下は広く手すりが設置しており、室内の散歩コースとして日々歩いている利用者もいます。1・2階の各ユニットの食堂兼リビングは、季節を感じる様々な作品を飾っており、彩りのある空間となっています。1階のリビングから外に続く庭は、物干しスペースでもあり、花を植え、土に触れ、外気を感じることができます。2階ユニットは、エレベーターを降りると犬の置物が出迎えてくれます。エレベーター右手のベランダは喫煙スペースとなっており、外部からは見えないよう囲いがあり、ベンチ、自動販売機が設置しており、家族との団らんの空間としても機能しています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>限られた空間の中で一人で過ごせる場所にソファを設置してくつろぎを希望される方にはソファにてゆっくりと過ごして頂いている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が落ち着け居心地良く過ごせるよう馴染みのある品を置いて頂き、居心地良く過ごせるよう努めている。 本人様に確認して塗り絵・書道等の作品を壁に貼っている。	居室入口の表札には手作りの作品が飾られています。室内にあるベッド、エアコン、洗面台、整理タンスはホームで用意しています。利用者はそれぞれ、テレビ、ラジオ、机、椅子、時計、仏壇、写真、ぬいぐるみ、カレンダー、洋服かけ、衣装ケース等持ち込んでいます。突っ張り棒を使って写真や花を飾っている居室もありました。壁には、書道やぬり絵、折り紙の作品を飾っています。掃除が行き届いており、利用者が居心地よく過ごせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には張り紙を行い場所が明確になるように工夫している。		